

## 総務委員会 県内調査活動状況

- 1 調査日 令和6年2月9日(金)
- 2 出席委員(10名)

委員長	桐原 正仁				
副委員長	石原 政信				
委員	河西 敏郎	山田 一功	渡辺 淳也	望月 大輔	
	清水喜美男	杉山 肇	飯島 修	久嶋 成美	
- 3 欠席委員 なし
- 4 調査先及び調査内容

### (1)【意見交換会】

#### ①出席者 入庁3年以内の山梨県庁職員

#### ②内容 「これからの県職員の在り方及び人口減少対策について」

#### ○主な意見

(これからの県職員の在り方について)

委員) 世の中がものすごい勢いで変わっている中で、毎日仕事をしていて、職場のこの仕組みがおかしいとか、あるいは、このような慣習をなぜやっているのかななどがあると思うが、1点でよいので教えてほしい。

出席者) 前の所属のときのことだが、会議をすることが多く、会議資料の作成や、その説明をすることが月に何回かあった。その会議の資料を、まず自分が作成し、それを担当の課長補佐に見せ、そこで1回修正が入る。次に、担当の課長に見せると、また修正が入り、さらにそれを部長に見せると、さらに修正が入ることがあった。最初に直したことを、課長に見せたら、また逆のことを言われることもあったので、これまでの時間は何だったのかと思うことがあった。業務の流れとしては仕方がないことかもしれないが、例えば、最初から全員交えて一気にチェックをすれば、1回で済むのではないかと思うことを何回も経験したので、そういった時間を少しでも削れたらよいと思う。

出席者) 旅費の資料が全て紙で出てくるので、1か月分でも、かなりの量になる。管理が大変で、また、過去の書類を見るときも検索ができないため、全部紙をめくって探し出しているが、電子化ができれば、検索したらすぐに見つけることができるため、管理の手間もあまりかからなくなると感じている。

委員) 今の話と関連するところがあるが、皆さんは、時間が限られ、人数も十分ではないセッションの中で、様々な業務に携わっていると思うが、そのような中、今後、業務の効率化について、より一層工夫していく必要があると感じていると思うが。今現在、皆さんが、業務を効率化させるために、個人でも、課でもよいので何か工夫していることがあれば教えてほしい。

出席者) 業務が入ってきたときの優先順位の割り振りをしっかりする点と雑談を非常に重要視している。自分のこれからの予定を雑談の中に組み込んでいくことで、常に、上司と私の動きを情報共有するようにしている。また、私は、現場に出ていく機会が非常に多いので、現場から帰ってきたときの報告についても、きっちりした報告ではなく、大体こういう話がありましたという話でも、すぐに伝えることを意識している。

それをしているからかは分からないが、私がどういった現場で何をしているのかというところが伝わっていると感じる場面が非常に多くてありがたい。

ただ、現場に出ている間に、私にかかってくる電話が、基本的に事務所にかかってくる電話に出ることができないというところは苦勞している点だと感じている。

例えば、携帯電話など業務中に使えるようなものがあれば、直接、自分にかかってくる電話を取ることができるのにとと思うことがあるので、そういったことができれば、業務現場でも対応でき、効率化できると感じている。

出席者) 個人的なものが1点と、全体的なものが1点ある。個人的なものは、何かアクションを起こすたびに報告書が必要で、関係者と会ったら記録を残しておかないといけない。そういったものについて試行錯誤しながら、生成AIに記録を書いてもらうことを取り入れるなど意識しながらやっている。

もう一点は、ICTによる無人化であったり、素人がやっても同じような出来になるような機械を取り入れている。

あと、事業の中で打ち合わせをおこなっているが、そこでは、紙をなくそうということで、電子打合せ簿というもので全てやり取りしている。

出席者) 業務の効率化についてだが、全体の動きとして、業務を委託する動きやマイナンバーカードに保険証の情報や所得状況の情報をひもづけるマイナンバー連携を次年度行うようなので、そういったところで、私たちだけではなく、県民の負担も軽減できるような動きが今後も見られるとよいと思っている。

出席者) 先ほどの電子化の話にもつながるが、今まで電子の請求書は原則駄目だったが、昨年、支払い事務の一斉電子化に伴い、電子で請求書をもらっても、それが支出の根拠になることになった。大きな企業は、インターネットでも請求書を引っ張

ってくるので、なるべくそういったものを利用して、お互いペーパーレスに貢献するようにしている。

委員) 新しく入った人を育てる、投資する時間があるらしく、一般の会社の場合、3年経つと一人前ぐらいになる。そういう中で、皆さんがやりがいを持って仕事をやっているの、とても感動した。

将来、仕事との付き合い方を考えたとき、例えば、結婚している方は仕事と家庭の両立や親の介護などを考えたときに、どのように両立させていくかを考えたことがあるか。

出席者) まず前提として、この職場は両立しやすいと思っている。今の所属も前の所属も、育児休暇を取っていた職員や、勤務時間を変更して勤務していた職員もいるので、そういった面で両立しやすいと思う。

私は、仕事というのは協力するのが当たり前だと思っているので、そのような職員がいたら積極的に手伝いをしているが、仕事の面だけでのサポートだけでは、どちらかというと難しい。一番大事なのは、家庭内でしっかりと役割を分担することだと思っている。

例えば、子育てであれば、夫婦で1対1とか、親の介護で三兄弟がいるのであれば、1対1対1など役割分担をする。また、夫婦で、片方が仕事を育児休暇で休んでいるときは、その負担の割合を変えたり、親の介護では、兄弟で、一人が特に仕事が忙しいということがあれば、割合を話し合っただけで変えたりするなど、家庭内での役割分担というのが一番大事だと思っている。

私も今年の夏に子供が生まれる予定だが、今から妻と今後どうしていくのかを話し合っている。

出席者) 私も今、子供が1歳になったばかりで、子育てをしているところだが、その中で感じるの、先ほどの方と同じようなところだ。

県庁の仕事は、非常に男性も休みが取りやすく、先日、妻が熱を出したが、そのときも、急に2日間休みを取ったり、イクメン休暇で、年間5日程度の休みをもらうなど制度が非常に充実していて、ありがたいと思っている。

男性職員も2か月間の育休があり、その充実もありがたいと思っているが、男性職員も含めてだが、もっとフレキシブルな働き方と言うのか、例えば、子供が生まれたばかりの時は、実はあまりやることなく。少したって、子供が動き始めてからの三、四か月後ぐらいの時期が非常に忙しかったので、細切れではないですが、少しまとまった休みを割り振って、1年間で使えるようなシステムになると、さらに使いやすく、ありがたい。現状でも非常にありがたいが、そのように思っている。

委員) 17年前ぐらいに、県庁で初めて男性職員が育休を取ったという話を聞いた。

今は、知事が100%、男性が育休を取るようにと言っているが、そういう話は、若い職員の皆さんの中で話題になったり、意見交換したりしたことはあるのか。

出席者) 私は、職場で活用されている方もたくさんいるので、どういった制度があるのか聞いたりしている。特に出産前に制度を確認して、実際、出産後、男性が育児に関わるようにしてもらえたので、非常にありがたかった。

委員) これから結婚するに当たって、職場に対する希望とか要望とかあるのか。こうなったら結婚しやすいというようなことがあれば、教えてほしい。

委員) 先輩など結婚している人たちを見ていて、結婚や育児などを想像できると思うか、どのように感じているのか。

出席者) 私は独身で一人暮らしだが、周りに、子供が2人いる先輩職員がいた。育休は非常に取りやすいと思うが、異動で忙しいところに行ったので、育児があるからといって、フレキシブルな働き方ができる所属に配属されるといったことが感じられなかった。異動についても、育児について配慮してくれれば、男性も育児に参加しやすいと思った。

委員) 公務員の気質は何となく分かるが、私が感じているのは、遵法精神である。法律は当然大事で、これからもそれに徹してもらうことは大事だと思うんですが、一方、一般の県民は、そういう決まりはあっても、臨機応変にやってもらいたいという気持ちがある。これまでに、そういう場面に出くわして、それに対してどう思ったのか教えてほしい。

もう一つ、私もサラリーマンをやっていたが、職場の人間関係についていろいろあった。私がサラリーマンの頃は、3日、3か月、3年という周期で、職場を辞めたいという周期がある。皆さん今3年なので、そう思ったことがあると想像しているが、今後、皆さんも責任ある地位になっていくと思うが、困ったときに誰かに相談したいことがあると思う。それが上司なのか同僚なのかはわからないが、そういったことを気楽に相談ができ、悩みを打ち明けるといった環境はとても貴重で、私も助かったことがあり、あのような上司になりたいと思った。

当時の社会環境と違い、いわゆる管理者がプレイヤーの部分が多くなっているので、部下の悩みやトラブルなど、あまり関わってもらえないという状況もあると思うが、その辺の現状と、どうしたらいいのか思いがあったら教えてほしい。

出席者) 最近あったトラブルだが、ある程度の計画が決まっていて、来年から事業をやりたいというタイミングで、ここを変えてほしいなどと言われると、また計画のいろいろな見直し起きてしまう。

ただ、個人だとどうしようもできないため、まずは上司に必ず相談すると決め

ている。それで県民に説明をしても、それでも納得してもらえない場合ももちろんあるが、そういった場合については、どんどん上の役職の方を巻き込み、できるだけ、その問題に対してのマンパワーを用意しておくようにしている。人数が少ないと出てくる案も少なく、また、上の方の経験則もあるので、できるだけ多くの上司に相談して解決策を探している。そこで説明や方法などのアドバイスがもらえるので、私は、できるだけ多くの人を巻き込んで解決していくことを心がけている。

出席者) 1点目の臨機応変に対応しているのかについてだが、公務員は紙に書いてあることしかやってはいけないというような気持ちが私の中ではとてもあるので、私は臨機応変に対応したいところはあるが、やはり最低限守る内容は絶対に崩さないように、毅然とした対応で臨んでいる。

2点目の相談できる環境についてだが、今の職場は、雑談なども多く、和気あいあいとしているので、隣の上司にも気軽に相談できる環境がある。実際、私はそれで一人で悩まずに相談してよかったと救われた面が多々あったので、そういった面では恵まれており、そういった環境というのは必要だととても思う。

出席者) 相談をする人がいるかだが、職場もかなり和気あいあいとしている所属で、若い職員がとても多く、ほとんど20代、30代しかない所属なので、とても相談しやすく、仕事で困ったことがあったら相談している。

また、同じ担当内に10歳上の先輩がいるが、最近お子さんが生まれた先輩なので、妻の病院はどこがいいかなどプライベートのことも相談できているので、今の所属はとても相談がしやすい環境になっている。

委員) 今まで皆さんの同級生などに、民間に就職された人や、同じように公務員として就職した人がいると思うが、会話の中で、民間とは違う、あるいは公務員はこういうところがいいといった感想があれば教えてほしい。

出席者) 私は転職して公務員になったので、前職との比較になるが、前職を辞めるきっかけになった理由の一つとして、県庁職員であれば山梨県内でいいが、民間の異動は、全国津々浦々の異動になってしまい、自分としての生活のベースができなかったことであるため、生活基盤をしっかりとつくれるところは、公務員のメリットだと感じている。

民間と公務員の違いについて、制度的な面になるが、公務員は入庁して、すぐ自分に割り当てられた仕事があり、すぐにその業務をこなさなければならないので、入庁してからの仕事量が本当に多いと感じている。

民間の会社であれば、例えば1年を見越して研修を積み重ねて、1年後にこうなっていなさいというところがあり、そこからの走り出しになるが、公務員は現場に実際に出て覚えていくというスタンスであるため、非常に覚えるスピードは

速いが、覚えるまでが少し大変だった。

また、公務員の場合、上司から二、三年後、自分がどのレベルになってほしいのかというフィードバックが得にくいと感じている。

民間企業であれば、3年後、あなたはこういう仕事をできていなさいというところがきっちりあり、それを超えているかいないかが評価になってくるが、公務員は、仕方がないことだが、上司から、仕事のレベルとしてどの程度求められているのかが少し分かりにくいと感じる。

出席者) 家族がシステム関係の企業に勤めているが、お正月に帰省した際、お正月後も長い間家におり、パソコンを開いていたので、何をしているか聞いたところ、3週間テレワークをすると言っていた。勤務地はかなり遠方だが、今は不自由なく働けていることにとても関心した。

また、企業に見学に行ったとき、業務を削減するために、パスで出てくる自動販売機を導入しているなどの話を聞いて、民間企業は社内の業務改善のために、意思決定を素早く、大きく変革ができるというところがいいところだと感じた。

行政機関というと、全部税金で賄っているため、どうしてもせっぱ詰まっていないとしないといったところは違いとして感じた。

出席者) 私も前職があり、民間で仕事をしていたが、1年目の冬にコロナがはやり出したため、3か月休館になり、その3か月間全く仕事がないという状態になったことがあった。それと比べると公務員はそういうことがなくいいと思った。また、そのときは本当にどうしたらいいか分からず、早く県や国がどうにかしてくれという思いだったが、転職して県職員になったら、今度はコロナ対策の応援班として、ホームケアの人に電話したりと全く逆の立場になった。そういった面で、行政の仕事は責任感のある仕事だとそのときは感じた。

委員) 皆さんにお願いだが、先ほど民間と公務員といった話が多く出ているが、そういう世界はつくらないでほしいと思っている。民間でも公務員でも、最終的にはお金をいかに有効化するのかと、そのためにどういう仕事をするのかということが目的だと思う。

皆さんの仲間と話をしても、公務員はこうですといった話がよく出て、私は不思議に思っている。そうではなく、そういう殻に入ってしまうと、これからの新しい時代の仕組みはできないのではないかと思っている。

民間であつてもいいものはどんどん取り入れたり、公務員で廃止するものは廃止したりということの意識を持ってほしいと思う。

もう一点、皆さんに聞きたいのは、皆さんの仲間と我々で何度も話をしているが、私は絶対にこれは誰にも負けない。プロだと胸を張る人は本当に少ないので、寂しく思っている。

皆さんは、私はこういうプロになるとか、あるいは、今この仕事をしているが、

山梨県を考えると、これが重要だから、ここを勉強して、このプロになるといった話があれば教えてほしい。少なくとも山梨県では、俺の右に出る者はいないとか、そういう志はとても重要だと思う。

出席者) 私は専門職で、現場に出ることが多く、中にいることが半分ぐらいである。私は現場が好きで、体力も自信があるので、現場のプロになりたいと思っている。やはり事務をやっているときよりも、現場で得られるものの方が多いと思っているので、現場は私に任せろと言えるぐらいに将来なっていきたいと思っている。

委員) 今の話の関連だが、昔から言われている名言がある。仕事の成果は現場についた足跡の数と比例すると言われていたので、現場がいかに重要かということ。頑張してほしい。

(人口減少対策について)

委員) 人口減少対策ということで県も知事が一生懸命取り組んでいる中で、まちおこしが大変必要だと感じている。

そこで、まちおこし、まちづくりという観点から、若い人はどのように考えているのか教えてほしい。

出席者) この峡東地域で勤務しているので、峡東地域の話になるが、世界農業遺産に認定され、特に素晴らしいと感じるところは、一つは景色、特に春先になると、桃の花が一面に咲く景色があること。あと、移りゆく文化についても認定されている。富士山という世界遺産との違いは、歴史を重ねていくとともに、その景色の維持することはもちろん重要であるが、そこに住んでいる人たちの文化についても評価してもらっているところが非常に重要だと感じている。

私が専門家ではないので、分からないところもあるが、まちづくり、特に文化は、長い歴史の中で培われてきているものだと感じている。地方には、それぞれの色があるので、そこを重視して、大切にできる人に来てもらうことが、地元愛の醸成ではないが、重要だと感じている。

私はワインについてかじっているが、フランスでいうと、テロワールという言葉がある。ワインの味一つにしても、その文化にまで根づいた味を表現しているというような言葉であると私は理解しているが、ワインではないが、そういった文化を大切に商品などを絡めて、まちづくりを行っていくと、地元が大好きな人たちが増えていくのではないかと素人ながら思っている。

出席者) 山梨はまちづくりをしていく上で、変に近代化しないということが多分、一番大きいところだと思う。

便利になれば便利になるほどいいという人、新しくなれば新しくなればいいというような考え方の人は多いが、いざできるだけ最新のものにしたときに、比較

対象というのが隣の東京や静岡とかになってくる。山梨の魅力は、もともと何かというと、新しいものを追い求めていく、近代化とか新しいものとかがあるようなまちではなくて、富士山など自然が評価されているので、観光立県ということで、観光地の甲州市や、富士吉田といったところのまちづくりに力を入れていく。

また、住民が住んでいないエリアがあるが、そういったところにも思っている以上にお金が支出されている。下水道や水道経費などがあるため、そういったところも一つに集約化する、できるだけ今住んでいるところから近いエリアに集めて、そこで新しいまちおこしができれば魅力的な山梨というか、無駄のないまちづくりができるのではないかと考えている

今後どうやって進めていくかだが、山梨は、リニアの開通で、中央市、昭和町、南アルプスは、今後発展していくのではないか。あとは甲府市など、アクセスが期待できるようなところを中心として、そのエリアは、東京や県外の人たちが仕事で来たり、山梨には住んでいるけど仕事場は東京が拠点というような地点として生かしていく。

田舎については、もともと住んでいる人は別として、観光は見込めるので、観光は観光、交通アクセスがいいところで、企業などの成長とか見込めるようなところは仕事、仕事と観光といったように、うまくまちづくりをすみ分けることが今後必要になっていくと思う。

委員) 若い人は一回東京など県外に出て、また戻ってくる人は多いと思う。皆さんの同級生も東京に行って、そのまま就職した人も多いと思うが、山梨県に関わっている皆さんが、山梨県の強みをもっと押し出したら永住してくれるのにと感じる事があれば教えてもらいたい。

出席者) 有名な企業が県内にあると、就職などで戻ってくる人が多いと思う。実際に県外に出て、そのまま帰ってこない人は、就職のタイミングで行き、そのまま転勤などが重なって、山梨に戻ってこない人が周りでも多い。

同級生などに、山梨に戻ってこないかと聞くと、働き口があまりないと言われる。有名企業もあるが、飲食業やホテルの分野では山梨は強いが、ITや工業系の有名な企業となると、県外、特に東京に集中しているので、県外へ移住する人が多かった。

逆に、山梨にいてもらうためには、山梨県内でも企業の認知度を上げていかなければならない。就職のときのタイミングで、最終的に決めるのは個人になるが、やはり周りの意見も反映されている。実際、親や祖父母の意見で、例えば、山梨で就職となると、公務員がいいのではないかとと言われる人が多いらしい。

公務員以外を探していくと、有名企業になる。同じ大学の山梨県内出身の同級生も、業界では有名な会社だったが、親や祖父は知らない会社であるため、家族内で賛成されないという人が多いと聞いた。



山梨に皆が知っているような会社というものが、これから成長したり、新しくできたら、山梨に残る人も増えるのではないかと思う。

委員) アミューズという芸能事務所が西湖に来ている。このインパクトというのは大きく、地元採用もすることになると、芸能関係に就職したい人は、興味を持って戻ってきたりする。そういった企業を誘致したり、例えば、大企業の本社機能を山梨へ持ってくるなど、今後進めていかなければならないと感じている。

ただ、そうはいつでも、県内にある企業の99%は中小企業で、小規模事業者だったりするが、そういうところに元気になってもらい、知名度を上げてもらう。私も知名度がないため親や祖父母に嫌がられた経験がある。今、若い人を、毎日募集しているが、応募してくれない。そういう状況もあるので、地元企業が、こうやったらいいといったアドバイス、あるいは、それぞれの担当の部署で民間の人と付き合いがあると思うが、県としてこうやったらいいといった考えや思いがあったら教えてほしい。

出席者) 土木系の会社となると、昔のイメージがあり、作業着を着て現場へ行くといった肉体労働のイメージがとともある。現在、システム化が進んでおり、実際に現場の事務所で作業をしながら遠隔で機械を動かしたりするような現場もある。また、測量のときドローンを使い、データをシステム化するなどしている。また、車に測量機械を乗せて測量をするなど、かなり近代化が進んでいるがあまり認知されていない。

一般の人で、将来やりたいことが決まっていない人に土木業という選択肢を持ってもらうには、土木業は実はシステムチックで、格好いい作業をしていますよというところをアピールしていき、それを認知させていかないと、多分選択肢には入ってこないと思う。そのイメージ戦略が重要だと感じている。

出席者) 農業の立場からの話をすると、農業者は、個の事業主の面がとともあり、一人一人が中小企業の社長のような立場だと思う。

補助金を受けながら農業をしている人がいるが、それに対して感じていることは、補助金は、ベースアップとしてはいいが、最終的には自走していくことが望ましく、一人一人が利益を上げていき自走できるような状態が一番元気を出せるのではないかと感じている。

その中で、成功している方々と話をする機会が多く、特にシャインマスカットが非常に売れていたこともあり、先日、話をした方は、高級外車を毎年乗り換えていると聞いた。うまくいった人とうまくいっていない人のマッチングをすることで、押し上げをするなど人との関わりを持つということも重要だと感じている。

また、大企業誘致は、そういった面でも中小企業に向けて、新たな業務を発注することができるという意味では重要だと感じている。

委員) 公務員の仕事は、法律と条例を基本的に守っていくことになる。私に、住民から要望があるが、私はいつも法律、条例に書いてあれば、それは無理であり、何も書いていなければ、行政の裁量権になると言っている。住民の方は無理を言うてくるので、その時点でフィルターをかけている。

県職員の皆さんは、曲げてはいけないものは曲げない、変えないものは変えずにやっていてもらいたい。

私は、妻が公務員だったので、4人の子育てをした。35年ぐらい前だったが、イクメンなんて当たり前で、妻が1週間ぐらい県外出張となると、自分が食事を作ったり、洗濯もした。なおかつ、上の子の3人はおむつを使っており、旅行に行くときだけ、紙おむつで大変だったが、あつという間だった。

子育てもしっかり協力するのは当たり前だと思うので、今は結婚、そして子育ても含めて、大分いい制度があると思う。

妻のときは、何か白い目で見られるようなことがあったが、復帰した後、仕事でしっかり返ししていけばいいと思う。今思うと、あつという間だったので、若い皆さんは、ぜひ前向きでいてほしい。

そして、今日話し聞いて、皆さんはこれから山梨県を背負っていく基幹になる職員だと思うので、大きな期待をしている。皆さんの意見を聞くことができてよかった。



意見交換会の様子

## (2)【リニアやまなしビジョン実証実験サポート事業費】

### ○調査内容（主な質疑）

問) エアトラックについて、5キログラムまでは大丈夫ということだが、風や雪、雨にはどのぐらい対応できるのか

答) 機体のスペック上では対応は可能であるが、航空法の制限があり、航空局に対してこういうマニュアルで飛ばすといったマニュアルを提出する必要がある。そのマニュアルでは、風速10メートルまでで、かつ雨天のときは飛ばさないことで申請をしているので、その範囲外で飛ばしてしまうと航空法の違反になってしまう。

しかし、先の能登半島地震の災害対応のときは、災害時の特例が適用され、一切それを無視して飛行ができたので、能登は風が強かったが、風速17メートルぐらいのときも飛び、また、雨や夜間も飛んだ実績があるので、今後はそういったところの規制緩和を訴えていきたい。

問) 雪と雨は問題ないのか。

答) 問題ない。

問) B t o CのCの方だが、消費者は、機器はどのようなものが必要か。

答) 家庭では追加で投資する必要はなく、基本的には電話やLINEで注文することが可能である。着陸については平らであればどこでも着陸できるので、小菅村の1つの拠点では斜めのところを整地しているところがあるが、基本的に、特に投資の必要がなく設置が可能である。

問) 高齢者が多いところでは、こういったサービスは大事だと思うが、高齢者の方はなかなか理解してもらいにくいと思う。その解決方法は何かあるか。もう1つ、当然支払い業務が発生するがどのようにしているのか。

答) まず支払い方法についてだが、これまでは代引きなどで対応してきた。しかし現状は急速に規制が緩和され、置き配が可能となったので、正直、今そこは課題となっている。今の選択肢としてはクレジット決済しか解決策がない状況であるため、今後QR決済などに対応していきたい。

高齢者の注文だが、小菅村の場合は、電話とファックス、LINEで買い物代行の注文してもらっており、近隣の方からはLINEで注文してもらうことが多い。

他の自治体の場合、高齢者向けに、独居老人の方にタブレットを配布してるところがあり、デマンドタクシーなどを呼ぶ原理で注文ができるような形になっている。



※説明、質疑の後、ドローンによる実証実験等の視察を行った。